

①大洲市の概要



大洲市は、愛媛県の西部に位置し、市の中心を県下最大の一級河川「肱川（全長103km）」が流れ、流域に田畑、集落、市街地が形成されています。

市のシンボルとして、藤堂高虎・脇坂安治の時代に整備された「大洲城（平成16年（2004）年復元）」があります。城下では、篝火を焚いた鵜舟と屋形船が並走する「合わせ鵜飼い」が夏から秋に行われ周辺の河原では地元産の「サトイモ」を使用した「いもたき」が300年以上続いています。

市では、「人・自然・まちきらめく」「知行創造」「自立と協働」を基本理念とし、「きらめくおおず～みんな輝く肱川流域のまち～」を将来像として掲げ市民一人ひとりが幸せを実感できるまちづくりに取り組んでいます。



「大洲城」



大洲市

<基礎データ>

- 人口：42,148人（令和2年9月末）
- 総面積：432.12km²（令和2年2月）



「うかい」

②大洲市の歴史・文化

「伊予の小京都」と呼ばれる大洲市は、四方を豊かな自然に囲まれた歴史と文化の薫るまちです。市内中心部には、平成16（2004）年に木造で復元された四層四階の天守をもつ「大洲城」と周囲に残る町並みは城下町の歴史を感じさせてくれます。



「龍馬脱藩の道（飛翔の像）」

肱川の上流域には、坂本龍馬が脱藩の際に通ったという「脱藩の道」があり、中流域の景勝地には明治期の名建築「臥龍山荘」が建てられています。また下流域には、現役の道路可動橋としては国内最古の「長浜大橋」など、肱川流域の歴史を育んだ文化財が数多く残っています。さらに、秋から冬にかけて明け方に肱川河口付近で発生する「肱川あらし」は、大洲盆地で発生した霧が激流となって伊予灘に向かって肱川を駆け下る大洲特有の地形と気候が生み出す世界的にも珍しい自然現象です。お越しの際は、ぜひこの肱川流域の自然や歴史を体感してください。



「臥龍山荘」



「肱川あらし」

③大洲市の特産品

肱川の恵みにより、多くの「ええモン」が創り出されてきました。肱川が栄養たっぷりの土を運ぶことから、大洲市ではねっとりホクホクの「サトイモ」が育ちます。サトイモ・鶏肉・油揚げ・こんにやくなどを煮込んだ大洲の郷土料理「いもたき」は、醤油ベースの甘めの味が心に染み込む逸品です。「志ぐれ」は、小豆と餅粉や米粉を混ぜ、セイロで蒸しあげた、羊羹とも外郎とも違うモチモチとした食感が特徴の伝統菓子です。また、肱川の下流はかつて木材の一大集積地であったことから、下駄製造が盛んに行われていました。伝統の製造に加え、足触り・履き心地を追求した「匠の技術」が現代に受け継がれています。※「ええモン」とは、大洲の方で「いいもの」という意味です。



「いもたき」



「志ぐれ」



「一本傘下駄」

まだまだ
「ええモン」情報
チェック



大洲市HP